

花  
八笑人二編  
上

13  
3094  
3



特  
3094  
3

儒者教以解惑。富家施以救貧。難矣。解  
且救。鯉丈先難而後獲。欲惠惑者貧者。  
而非儒非富。無所苟而已矣。仰觀世俯  
察情。作世話之書。名曰八笑人。讀者必  
悅且娛。破眠除欠。忘倦忘憂。冬夜夏日  
為短。豈不近解者救者乎。

文政四年辛巳正月

大八海老人稿

八笑人序

昔も美人のらんあやうと河を渡生變家  
事コトようみく控コウケはあくとと志シうび  
福イハヒ日ヒ不食フシキ賀カ平ヘイとやいそんえんじセイシは清セイ美メイを  
あのみウツクむム恙ヤスよあねがもを控コウの樂ラクを  
室ムロに病ヤマイを申マウしとさひヒ花ハナと月ツキと  
心ココロはゆせど社シャ伯ハクとよもやきんこの成  
連ツラされば今イマよそまのマノとアサをアサあよ  
のくありとんよとあアハ程ハジとまのマノひ

秋アキのノ様サマええくくままくくのの山ヤマのの山ヤマの  
ああくくままくくのの山ヤマのの山ヤマの  
ななののけけくく成人オトナ予アタシよ今イマくく日ヒ彼カノ小冊コソク伯ハクの  
為タメにニ書カキ述ツさるルわわ予アタシ上ウヘにニせせささだだららひひを  
ししねねくく書カキ入イんんととくく新アタラつつ中ナカのの山ヤマの  
いいつつももええんん物モノ長ナガ徳トク無ムのの山ヤマなくなく若ワカ乃ノああららずず  
甘アミいいつつももああららずずササアアとといいわわエエトト口クチ塞サエとといいて  
神カミ人ヒトとといいふふわわくく世セとといいふふ日ヒ

いふに先生母の事と今丁卯  
志す〜先着書に清浄をようみる性善の  
為らるる成知れともいひて不なり根はひ  
や人の〜唐く聖智經文と礼をさ  
し〜の〜いふ作者  
がう〜ひ〜の〜後冷の如考み  
汗と〜の〜の〜西の〜志  
〜門前奉事する〜梅元の文永考か

使かりハ美人の後海のと怪怪されき  
岸〜く〜て〜の〜ひ〜  
人〜の〜の〜  
〜の〜

あぬの事己春

沈亭主人輕文誌



八  
 八



松まつの操まこと物語ものがたり 前編 一筆菴主人著  
三冊 漢齋英泉画

松操まつまこと 解とくりあやまの判断はんぱん 畠山情の聞書ききぐら 全三冊 同作

後編ごへん 結むすぶあやまの糸筋いとすぢ 同画

明鳥あけり第だい二編にへん 全三冊 近刻

玉たまちる袖そで後編ごへん 全二冊 近刻

花暦はなれき 八笑人はつしょうにん 二編にへん 上之卷

瀧亭鯉丈作

ひき 久ひさこの光ひかりりのどけと詠あひトたる。春はるは日ひのうららりさのうせり  
野の辺へ小若草せうじやくそうのりゆる烟けがま霞せま山懐やまなつかふ早はや日ひびのあざり  
こがしを閑ひまくさう。成な果はるはるふぬ花暦はなれき年々としとしさしく相似あひまても。  
目め々々夜よ々の花はなの形かたち同おなトかゞる縁ゆかりあひ心の花はなも櫻さくら比ひらき  
ままの空そらふ陽ひかり火ひのちるくさゆるあちちるあちちるあちちるあちちる  
櫻さくら花はなのあざりて帰かへる老父らふ賢けん愚ぐふ大福だいふく押おしまて。うあま

八笑人二編上







貫とがくちんふふもの。川越の弁當のこのりよ。て  
 拭きさくくと。米屋かむりとのり持ごちをせん友むが  
 り拭と君のりめんどうもやううへ糸(純公のぶろくちう  
 の井)純公豆下のり拭のんちをいせまこれよ(可)や(是)が  
 川越の弁當とやうう(お)あ人もやあよとよく(せ)せ(将)旨油と  
 ひぐ(煮)漆(の)糶(ご)り(夏)よ(ち)んと(ん)ともの(り)か(と)く  
 だろ(り)り(買)う(る)も(と)わ(ら)ら(せ)ん(て)ま(ま)ま(ま)ぐ(ら)ら  
 一(大)ま(は)お(世)枯(ち)茶(で)も(の)ち(あ)わ(く)と(と)く(ら)れ(る)り(の)り

り拭を見たら、のりひかくとらる。是とあふとあふ(ん  
 ふ)りて(入)移(せ)せ。このり拭(小)ま(ま)小(島)う(ぶ)の(小)娘(共)に  
 仕送る。衣類持物(小)ハ(歳)増(分)後(家)の(た)び(ひ)の(り)の(ら  
 ち)う(尻)ツ(ク)存(の)り(り)い(又)り(び)つ(た)と(成)る(や)ア(る)一(片)ア(く  
 百)知(せ)く(己)が(ゆ)ふ(ま)存(ら)る(と)る(者)や(ア)が(ら)。(以)後(外)の(物)は(見  
 せ)る(あ)ぬ(何)ぬ(く)是(ハ)狂(ふ)小(づ)の(り)の(味)ご(う)ら(ま)が(せ)り  
 け(一)ち(や)ア(お)く(一)向(島)の(紙)向(小)娘(や)茶(増)の(後)家  
 だ(の)と(入)用(う)入(用)で(の)糸(た)れ(と)向(島)ご(う)ら(ま)が(せ)り(の)も

川越の弁當

四



笑ひてくわらう。何れも出てあゆむやぶて歩け  
ごまのうへ大當り。さう「おれのあしをさげあはし  
とらう。大當りさすかあるもの。さうおれにそれさうよ  
うさうとらふのよ。此又面へ。あま牛りアうたさうさう  
ねへサ「まッ又つて持出さやアがる。さうちやぞくおれ  
「おれあまのさア「おれおれさうさうさうさうさうさう  
そと牛りおやアあまあへ「さうさうさう。是さうさうさう  
其形りで牛の内前から秋葉道辺。三まうせぬ。おれの

あまのいんごう。さうさう人へさうさう「付いて来るさうさ  
「さう「さうさう「お置あまま「サ。三圍のがんぎふ。さう  
あが「か一艘をさ居中へ「おれさうさうさうさう狂つて  
わ。さうさう「又見物のさう「楽屋さう。三三人まうらて居  
て。始終「さう「かさうさうさうさうさうさうさう「又其さう  
何れ。おれおれおれ「おれ「おれ「おれ「おれ「おれ「おれ「おれ  
をさげさうさう。眼公が侍のさうさうさう。見物さうさうさう  
ホント當り。おれよあめさうさう。おれさんさう。茶山「おれが

茶山「おれが

おれ

まさるとあるくわも。こらちる茶めし。さびちりく笑て  
居る。あそふ兼く。さよまひの切てくる。愛人あそ  
立廻りを付てもら。とらめらのうひで。がんきんが下る  
つらひ追てくる。追結らまくと見物どのぬよ小汗を握  
らせ。あやあといる間も彼の小舟をえひやまくと飛乗は  
侍も同じくよびこむと船とつんと押突とせんぬ。あまふ  
又家根入逃上。真中から入るあんとあつと。愛あゆま  
指むしめ綴がむらりとあひら。ぬ拭をひよると取って後  
わらりと糸毛のきこして。保名の物さひといふ。さうすだか。

あんと初よぐきこるからと。ぶつとまねのまふあつと云  
のんごらだんごらういびりらまらう。首あむらりその  
首うそまもがらと引移りくまがらうのさうさう。中ら  
まのころまらる船の簾をさうくと巻と唄三線（や  
あま。ちやんと並んで居る。大靴くやアリとかけと唄のさ  
さらぶ有い雲井の花の袖あふさうら執着のよアバ公  
か靴唄く。仲あ狂札をたぶ一す番中積りごへふ兼て

煉の扇あせがまま右三。いひかいち番入もうらうが  
 公公々本續でらまくありやらなからどもも安心あらない  
 へいちのばくにツ東一山いひの扇うらうとうらんの  
 田土山あんぞからどもびんさとのいちの中ままいま  
 ちまちありしておのれましらばうめ入心得のねん直家とる  
 へこらのといて取成一番入うらい頂武公の扇を  
 取つてえらまいしてツギヤトひらくまいんままうらいく  
 扇ありやア出来ありのめらうともあらうのめらいくまいんとらいく

扇ありくとうらいくまいんとらいく  
 封のままねんのが有る者ど一本切てやららしてあらい  
 東のそままあげるよしマト妙くマアうと切つてそこを  
 今ヤチヤ。イヤ。是の又はちちちちうひらうねんあんまりをまりん  
 過の扇ど「およく七あんどうなまま牛のらいみぞ。マツ友方の  
 へあげらしてマア。そままうらいくまいんあらいしてそんならいマツ。今ヤト。  
 うらうそれ。それ。それ。それ。マアうんや。まい。是のままうらいして一番せが  
 ひらうらいしてマアうらいしてままあらいしておとせいし







八舞人三舞

をねがあつとりふ存心（せんしん）にお安（やす）は用（もち）とんどもちまう入（い）サセ  
 お弾（ひた）とちの「（たに）」が此通（このと）のよ（よ）が引（ひ）やぐ（ぐ）とふちとる（と）か  
 かろぬ一純（ひと）公（こう）ちん（ちん）そろ。あ（あ）の（の）成（なり）持（もち）り（り）と安（やす）楽（らく）の（の）所（所）  
 かろふあのよ（よ）が（が）あ（あ）ま（ま）ぶ（ぶ）芝居（しばい）へゆ（ゆ）とち（ち）付（つけ）て二枚目（にまいめ）又（また）股（もも）が  
 有（あ）る（る）かろ（ろ）持物（もちもの）へ（へ）う（う）。あ（あ）る（る）歳（とし）はた（た）と（と）三味線（さんまいせん）お（お）う（う）ア  
 一（ひと）ア（ア）ニ（ニ）そ（そ）ふ（ふ）ま（ま）う（う）く（く）い（い）う（う）ね（ね）入（い）る（る）膏（こう）葉（え）成（なり）や（や）と（と）ぶ（ぶ）お（お）置（お）き（き）と  
 ぞう（ぞう）て（て）ど（ど）ふ（ふ）さ（さ）る（る）一（ひと）流（りゅう）打（うち）の（の）足（あし）場（ば）と（と）ち（ち）ら（ら）う（う）て（て）難（なん）波（な）心（しん）  
 まま（ま）と（と）出（い）ま（ま）す（す）様（さま）一（ひと）引（ひ）雀（さく）籠（かご）と（と）ち（ち）ん（ん）で（で）も（も）い（い）り（り）イ（イ）吉（きち）と（と）り（り）と

あまふ斗（た）り（り）あ（あ）ま（ま）う（う）つ（つ）ち（ち）や（や）ア（ア）ガ（ガ）。あ（あ）ま（ま）う（う）の（の）一（ひと）ア（ア）の（の）イ（イ）チ（チ）  
 ま（ま）の（の）一（ひと）何（なに）の（の）夏（なつ）が（が）有（あ）る（る）の（の）う（う）引（ひ）お（お）と（と）且（かつ）が（が）敵（たか）と（と）い（い）ふ（ふ）  
 ふ（ふ）る（る）そ（そ）と（と）ね（ね）入（い）る（る）一（ひと）サ（サ）ア（ア）く（く）坊（ぼう）も（も）へ（へ）と（と）く（く）を（を）弾（ひ）め（め）楽（らく）と（と）い（い）ふ（ふ）  
 ヲ（オ）ヤ（ヤ）く（く）ナ（ナ）セ（セ）連（れん）と（と）む（む）の（の）ぶ（ぶ）と（と）又（また）邪（よこしま）を（を）と（と）ら（ら）け（け）る（る）  
 一（ひと）の（の）と（と）ち（ち）く（く）。サ（サ）ア（ア）坊（ぼう）多（た）ま（ま）と（と）い（い）ふ（ふ）。よ（よ）く（く）ね（ね）む（む）と（と）ね（ね）入（い）る（る）一（ひと）サ（サ）ア（ア）  
 張（ちやう）り（り）で（で）ち（ち）り（り）ま（ま）を（を）ね（ね）ん（ん）ヨ（ヨ）ヲ（ヲ）ヤ（ヤ）く（く）よ（よ）く（く）あ（あ）ら（ら）の（の）う（う）。ち（ち）ラ（ラ）ア  
 モ（モ）ウ（ウ）あ（あ）ん（ん）ち（ち）な（な）子（こ）と（と）い（い）ふ（ふ）。ま（ま）う（う）ふ（ふ）へ（へ）ん（ん）ナ（ナ）心（しん）持（もち）ふ（ふ）ら（ら）と（と）い（い）ふ（ふ）  
 の（の）ぶ（ぶ）と（と）ち（ち）く（く）サ（サ）ア（ア）子（こ）供（かみ）へ（へ）ま（ま）の（の）入（い）る（る）一（ひと）サ（サ）ア（ア）ニ（ニ）其（その）を（を）と（と）ら（ら）け（け）る（る）

八舞人三舞

と。あまのり子。此子ハ元だ。どよりの記。出ま。あ  
あんと。沸く。えぐ。く。ん。と。モク。た。ま。り。あ。れ。あ。る。あ  
「あまのり子」野宮さん。ヨ。この子。を。拍。戸。が。ひ。く  
あ。が。あ。け。ハ。始。終。つ。も。あ。ら。う。と。い。ひ。ん。あ。が。あ。る。見  
つ。ハ。上。二。角。カ。ホ。さ。る。ま。ま。ぐ。く。福。ハ。ま。ま。ま。ま。眼。尿。を  
た。ま。げ。の。根。は。あ。ま。ま。ま。ま。ま。可。引。か。ま。ま。い。口。あ。が  
あ。い。も。あ。ん。も。ね。時。あ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。狂。乱。と。一。番  
弾。く。あ。ら。う。え。ね。あ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。茶

番。有。一。の。あ。ま。の。野。宮。公。が。一。番。の。作。ら。う。と。い。ひ。存。心。で  
あ。ん。と。あ。ま。の。り。子。は。あ。ま。の。り。子。は。あ。ま。の。り。子。は。あ。ま。の。り。子  
ろ。う。あ。ま。の。り。子。は。あ。ま。の。り。子。は。あ。ま。の。り。子。は。あ。ま。の。り。子  
見。分。を。あ。ま。の。り。子。は。あ。ま。の。り。子。は。あ。ま。の。り。子。は。あ。ま。の。り。子  
あ。ま。の。り。子。は。あ。ま。の。り。子。は。あ。ま。の。り。子。は。あ。ま。の。り。子。は。あ。ま。の。り。子  
と。あ。ま。の。り。子。は。あ。ま。の。り。子。は。あ。ま。の。り。子。は。あ。ま。の。り。子。は。あ。ま。の。り。子  
あ。ま。の。り。子。は。あ。ま。の。り。子。は。あ。ま。の。り。子。は。あ。ま。の。り。子。は。あ。ま。の。り。子  
で。あ。ま。の。り。子。は。あ。ま。の。り。子。は。あ。ま。の。り。子。は。あ。ま。の。り。子。は。あ。ま。の。り。子

八段二編上

十一



茂士也  
 おろろ  
 うろろん  
 花よ  
 まの  
 うく  
 夾の  
 山月  
 氣味も  
 傳世



ののひあー仕方がねへハイくかまきゆのりまのまひが  
 ねふせうなまらてかつひ下さうまうーイイサうらみッポイ  
 夏をりうと。ニ人て立廻でも案トさうー。そこぞ  
 あらちの二階よさう。まをちどろさら又口がやうま  
 けろろ。ちまがんとけまびり。卒公と眼公斗りまさう。  
 見物よまらて居る侍ハバ公がよろろふ又おまが侍  
 十ヨツ兎角ゆくまれ役ぞチーそまごまご。仕舞のおちへ  
 車へ船へびらいた飛込其形で報唄とくると。奇妙がぜ

うーちうとまも立廻の跡で船へ飛込ん息切て  
 えまふもねんせーそりヤアの死をつくぬへ大小でうけり  
 と小長く打て居る。ゆうと息のつけまごろまらり  
 うーちうまらつげへ目公も一口ゆてまらまらう一折  
 舞の舞いどけ郎まららで都合がけりうらま  
 まらまら半口とあらてえねねまらるる晒落へ出ねん  
 ね。夜。ライ頭武州野呂公が所作して居るまら。のろ  
 まらまら。よ。バ公とらららとまらまら立廻りまら。つげまら。

一。サアおどるさんころらふ二階とまわせう。坊へ夜  
 々。ころらと目ぼくころらとて置がりの。卒公眼公サアく  
 野。公何をきて居るヨ。子ヨツト。下ロかんまを付うて  
 い。ころら。く。い。い。い。の。ま。い。後。今。度。の。催。い。出  
 入。の。氣。を。の。り。せ。る。ま。た。わ。ね。自。分。の。茶。番。を。や。ア。ね。が  
 引。ッ。ト。兼。知。く。サ。ア。ひ。や。せ。う。頭。武。公。立。廻。う。と。美。味。く  
 頼。せ。い。だ。ま。う。て。行。い。し。著。を。持。て。喰。斗。う。よ。と。せ。ん。て  
 ころら。サ。ア。い。ち。く。善。好。さん。宜。い。の。ミ。ト。申。は。十。の。う。枚。の。ア。公  
 二。階。の。く。ア。公

一。い。い。い。い。い。持。て。び。う。う。と。せ。よ。い。せ。い。と。そ。と。お。れ  
 後。廻。ッ。ハ。い。タ。テ。斗。い。う。う。西。作。より。タ。テ。で。ぶ。ら。メ。て。くれ。べ。エ  
 一。い。い。い。い。い。荒。ま。い。筋。を。立。テ。子。エ。そ。ま。う。う。小。枝。ハ  
 一。い。い。い。い。い。を。付。く。よ。う。う。う。う。鬼。角。タ。テ。の。ま。ま。い。う。が  
 かん。さん。せ。い。ち。い。ね。わ。う。う。う。う。う。の。禁。い。う。が。下  
 一。い。い。い。い。い。香。が。こ。り。イ。ヨ。ど。ぶ。も。素。切。と。い。つ。て。も。と。う。く。山。を。入。て  
 一。い。い。い。い。い。隨。分。洒。落。う。も。い。が。あ。ん。ま。う。か。ん。さ  
 一。い。い。い。い。い。う。ら。う。う。う。う。う。う。あ。い。う。ア。た。ら。う。て。い。い。い。い。い。も

素人細工のハ胸でこけるも。午ヨイトあつ建ると云次

素人細工のハ胸でこけるも。午ヨイトあつ建ると云次

あつねいねもんで取初りも早く押合てくるが一寸もん

早イヨ。そとくうニ人でも續をおびく下がる。サア頭武公

アットそまき。先胸倉へくううあう。初胸倉でも

あつねいねもんで取初りも早く押合てくるが一寸もん

早イヨ。そとくうニ人でも續をおびく下がる。サア頭武公

アットそまき。先胸倉へくううあう。初胸倉でも

あつねいねもんで取初りも早く押合てくるが一寸もん

早イヨ。そとくうニ人でも續をおびく下がる。サア頭武公

アットそまき。先胸倉へくううあう。初胸倉でも

あつねいねもんで取初りも早く押合てくるが一寸もん

早イヨ。そとくうニ人でも續をおびく下がる。サア頭武公

アットそまき。先胸倉へくううあう。初胸倉でも

あつねいねもんで取初りも早く押合てくるが一寸もん

早イヨ。そとくうニ人でも續をおびく下がる。サア頭武公

アットそまき。先胸倉へくううあう。初胸倉でも

素人細工のハ胸でこけるも。午ヨイトあつ建ると云次

素人細工のハ胸でこけるも。午ヨイトあつ建ると云次

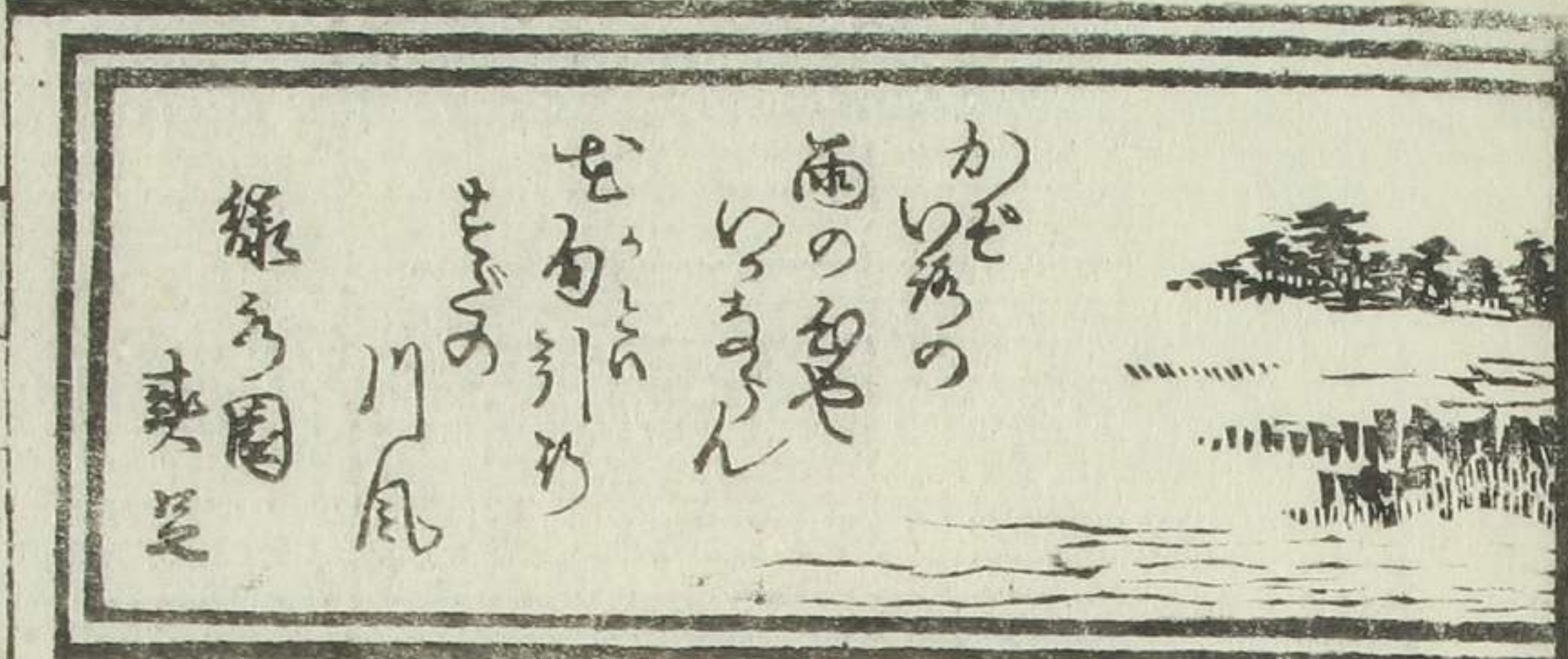






「のんまう 頭武公のえんまうがむそまうくちまうかたう。  
 ぐまう 美味がうまうくちまうてたまませまうん」頭武公も  
 まうちまうせまう。そくて少と登まうまうけナニあうくも  
 こいねがう「わまうせまうてそまうで 天窓うう湯氣が立  
 へ」まうまうおんてが男がたねおん 極心持まうまうまう  
 思まううむん吞公湯でも水もくまうね入うまうのまう  
 後 後んまう「腕の持うまうまう。後んもまうおうまう  
 のこまうとまうけうまうとして。こお入てくまうね入ら

群居の中へおまうせ。そまうもそまうまう出来そま  
 ちまうたのむめ入「は」まうまうの立廻をまうまうも出来  
 ね入もりのめうナア 頭武公「そまうまうまうのま内證  
 おとま。おまうまうひまうとまうまうくニ階「まうつらも尻びり  
 のら甘ふ口斗りのま 連者ダト「オハハハ」オハハハニまう  
 千ヨットまうくえんね入 稀荷町「何をまてらるのま。そま  
 りまうまうまうまう。まうちがかんまうまう「ナンダトまうま  
 安く取あうまうま。コレ金お泊のつら「イハハハ」アハハハの



かぞ  
りゆの  
雨のちや  
りまらん  
をうしん  
を引り  
さし  
川風  
縁の園  
爽は



かけしやうらむらぶ。そらそら夜ねむらう。翌日て入間と合ね  
としまうねくしの引ねをむねむ。こらちで拾を二枚投引  
おどひて。いせくむらちのあひ。そらまの相言日でもらひ下々の  
まらえんきやえんや。置がころう。出目公今度のは  
ね私の形ハ今夜かりて置がころう。先ぞ舞くく  
居後ふ一ツをころうらつてまてころう。先ぞ舞くく  
うねくせしヨクくらつてころう。こらちまきこらつたを。  
こらちまきこらつたを。小侍よ答へんころせ  
しころう。早くまてころうねく。モウ

目公預ごよ。アバ公も頭武公も車輪をやらつてヨト  
りまて二のくちのあひ。サアサエエがやま。頭武公  
女もえりやうあひ。先をころう。斗りて行て入のんだ。  
さうも足下のやうふ。むかふ腕をひつ極んだう。ひん  
おららう。あひまう。白ッポ。相ひよあひる者ぶ  
怪我をまらる。そらそ大相ナ丸のまらう。七種乃  
まらまう。あひむせし。夜中





あらうろう。眼がん公こうおくらうて行いッーちんアあニにころちる居ゐてハ  
あんきうあん夏なつあやアあまのま「眼こころちるのこ心こををぶぶよくよくこんこんく  
びらてらびららいいここんんののママツツ。ふも武ぶ運うんふふつつ死したたててここウ  
ナなコこサさむむぢぢ口くちををししてて早はやくく坊ぼをを連れんてて行いッッ。  
おおるるさんさん大おほささふふ。そんそんぢぢううああ「ま又またチちョよイトいとかかららてておおれ  
「おちちゅうゅうちちうう。ああ「おんんちちううぢぢかかおおままささうう子こ「おぶぶうう早はやく  
「お紀ぎズずヨよ「おハは「おババイイややままののししもも明めい日にち「おかかままししのの子こに  
だだううトト「おららががううハハ怪け我がでももちちるるぢぢああ人ひとににおおくく

よよららががどどろろとと居ゐららうう。ほほ我がののぢぢああ人ひとががびびららららん  
ままののここイイヤヤ坊ぼうう武ぶ公こうががふふううぢぢぢぢ。ノノイイ匠じゆままき  
公こうくく。何なに。何なに。ままああぢぢののううささららううににららううぢぢあ  
「おホほンんヨよコこウうぢぢああ人ひと夏なつ成なりららうう中ちゆう氣きああぢぢででももちちららううののぢぢああ人ひと  
ウウ「おアアレレかかむむううををああららアア。中ちゆう氣きててななぢぢああととはは「おドドレレ蝮ゆう蛸さくを  
めめつつててああららうう。アア「おハハささららううぢぢああののダダ「おハハささららううぢぢああ。  
ああぢぢああををひひららううののぢぢああ。ああららアアぢぢああ「おハハささららううぢぢああ。  
「おアア、おハハささららううぢぢああ。たたままああぢぢああををああららううぢぢああ。  
「おハハささららううぢぢああ」

八笑八二編上

七五





